赤池福祉会四保育園保護者会連合会講演会

三カン王をはぐくむ実践育児論を聞く

村田千代子助産師（北九州市）を招いた赤池福祉会保護者会主催の講演会が、2月3日に中央公民館で開かれました。乳幼児期からの目と目の会話、肌と肌のふれあい、子どもの言葉を傾聴する大切さを村田さんが力説。「関心・感動・感謝がもてる『三カン王』を育てましょう」という体験に基づいた言葉に、約60人の参加者が熱心にうなずいていました。

↑体験談を話す母子保健指導センター「サンムラタ」の村田千代子助産師。

↓厳かな雰囲気のなか除幕する奉納者の須藤道生さん（天神町・写真左）。

金田菅原神社ご神体奉納

道真公が5百年ぶりに鎮座

太宰府天満宮での入魂式を済ませた菅原道真公の木像が、2月18日に金田菅原神社に奉納されました。672年前に創始したこの神社は、度重なる戦乱によって黄金のご神体を紛失。およそ500年間不在だった道真公の像が、この日ようやく鎮座しました。念願かなった地元の人たちは、晴れやかな表情で鮮明な色彩のご神体を見つめていました。

↓日本陶芸展の入選作品と同じタイプのやきものを手にする渡久兵衛さん（写真右）と仁さん親子。

第19回 日本陶芸展

渡久兵衛さん仁さんが親子入選

実力日本一の陶芸作家を選ぶ「日本陶芸展」の審査結果が2月11日に発表され、上野焼の渡久兵衛さんと仁さんが親子入選を果たしました。「気負わず淡々と作った」という父・久兵衛さんは「上野伊羅保釉刷毛目茶盌」と「上野鉄釉櫛目水指」の2点が入選、茶盌は620点中16点の賞候補に残りました。「失敗を重ね、しめ切り前日にできた」という息子・仁さんは「上野ヤケ釉鉢」で初入選。対照的な作陶過程を経て、会派や団体にとらわれない隔年開催の狭き門を親子で通過しました。

吉田繁敏さんの手作りひょうたん

交通安全の願い込め5百個作成

「飲ンダラ乗ルナ」のフレーズと、お酌を断るユニークなカッパの絵で飲酒運転を戒める10cmほどの小さなひょうたん。町の彫刻家・吉田繁敏さん（宝見）が、交通安全への願いを込めて約500個を作成し、無料で配りました。受け取った人は「このカッパのように、お酒には気をつけなければ」と効果てきめんの様子でした。

↑「たくさんの人に喜んで欲しい」と大小さまざまな作品を手がける吉田さん。

↓「命は親も子も平等、互いの尊重が大切」と会場に語りかけた田中さん。

人権講演会

命をたたえ命の大切さを知る

「方城中校区人権と福祉のまちづくり推進委員会」主催の「人権講演会」が2月8日に方城分館で行われました。講師に西郷寺（嘉麻市）の田中了彩住職を迎え、約60人が参加。田中さんは「いじめや自殺の問題が叫ばれる今、大人が命について学び、命をしっかり賛える姿を子どもに示すことが大切」と力を込め、参加者は真剣に耳を傾けていました。

福岡県中学校新人バドミントン大会

集中力と勝負強さ発揮し県大会準優勝

田川地区大会、筑豊地区大会を勝ち抜いた赤池中バドミントン部が、2月10日に福岡市で行われた県大会で準優勝を飾りました。バドミントンにかける意気込みが人一倍のメンバーは、コートですさまじい集中力を発揮。レベルの高い大舞台で勝負強さを見せつけました。3年生が引退し、新チームで臨んだ新人戦で、さい先のいいスタートを切りました。

↑2月14日、部員たちが堂々の準優勝を桑野隆泰教育長（写真左）に報告。

↓沖縄ではできない雪合戦を英彦山で楽しむ中城村と福智町の子どもたち。

沖縄県中城村・福智町交流会

雪の感触と交流に心はずませ

児童の相互訪問を続けている沖縄県中城村との交流会が、2月2日から2泊3日の日程で行われ、津覇小学校の5・6年生12人が来町しました。期間中、子どもたちは町内にホームステイし、雪や電車など初めての体験に歓声を上げながら福智町の児童と交流。沖縄との約12℃の気温差に身震いしながらも、冷たい雪の感触を楽しんでいました。